

授 業 科 目 名	乳児小児救命法			教 員	橋本 夏夫/マスターワークス		
開 講 時 期	後期集中	配当年次	2	単位数	2	授業形態	演習
免許・資格との関係							
授業内容を示すキーワード	乳児、小児、救命法、心肺蘇生法、けが・事故・病気、手当						
授 業 の 概 要	保育環境においては、睡眠時の呼吸停止や窒息、溺水など、生命にかかわる緊急時への対応が最も重要であり、さらに日常的なけがや急病への適切な対応と手当の仕方を習得しておくことが必要となる。本授業は生命の優先順位に基づき、現場の手順に沿って救命・応急処置の講義、実習を行う。						
授業のねらいと到達目標	【ねらい】この授業の目的は、乳幼児の保育現場における事故防止と、万一の緊急時に医師や救急隊に引き継ぐまでの応急手当を習得することである。 【到達目標】全ての授業に出席することにより、希望者はL.S.F.A.-Children'sプログラムの「FIRSTAIDER with CPR Training Certificate」認定カードを申請し、取得することができる。 認定を取得すると、L.S.F.A.本部により2年間にわたり訓練内容が証明される。						
授業の方法等	こどもの事故や急病における現場の行動手順に沿い、Step-by-step で進める。短時間の講義を行った後、該当する実技演習を行う。なお心肺蘇生については2015年末に改訂された最新ガイドラインに準拠した実習を行う。						
授 業 計 画	1 3日間集中授業で下記の講義と実習を行う。 2 (第1日) 3 1. こどもの事故の現状と応急手当の必要性 4 2. こどもの事故防止、119番通報の仕方 5 3. 保育環境における突然死の実態と予防方法について 6 4. 事故現場の観察と接触(安全確保、感染予防) 7 5. 生の徴候の調査(反応、呼吸、出血の調査) 8 6. 反応がないこどもの手当(気道確保と回復体位) 9 7. 心肺停止の手当(乳児、小児の心肺蘇生/CPR) 10 (第2日) 11 8. 心肺蘇生とAEDの使用 12 9. 気道内異物の除去(乳児、小児) 13 10. 止血とショック管理(止血法、保温法) 14 11. 全身のけがの調べ方 15 12. 各部のけがと応急手当(傷と包帯、骨折、脱臼、打撲など) 16 (第3日) 17 13. こどもの急病の調査(脈拍、呼吸、体温、顔色など) 18 14. こどもの病気の手当(発熱、けいれん、腹痛、脱水、アナフィラキシー、中毒など) 19 15. 生物によるけが、こどもの虐待、災害時の注意 20 16. 心肺蘇生実技評価セッション(乳児、小児) 21 また、単位取得にあたり、3日間の集中講義に加え、事前指導・中間試験・事後指導の授業にも参加すること。 22 振り返り(事前・中間・事後指導・答案を返却、実技講習項目別の評価を基に捕捉し認定証の配付を行う。)						
成績評価の基準と方法	■授業への取り組み・態度 20% ■その他(事前・事後レポート・中間試験・実技認定各20点×4) 80%						
教 科 書	「こどもの事故と応急手当」第6版(吉田一心/伊東和雄 著、2017年1月1日発行) 出席にあたりテキストは必携である。 購入方法については後日指示する。						
参 考 書	やまたんテキストVol3						
予習・復習・課題など	【復習】心肺蘇生法をはじめとして、その日の実習で学んだ方法を、テキストなしでできるように練習をしておく。						
関 連 科 目	子どもの保健						
質 問 受 付 の 方 法	授業開始前や授業終了後に随時受け付けます。						
履 修 上 の 注 意	運動できる服装・髪型で参加すること。遅刻・欠席・私語・居眠り等は、内容理解不足として不認定になる場合があります。						